

ICHIKAWA

TOSHOKAN

DAYORI vol.3

ICHIKAWA BY THE LIBRARY REPORTERS

493~519.1

490 医学・薬学
519 公害・環境工学

27 28

660 ~ 689

670 商業
680 運輸・交通

772 ~ 810

780 スポーツ
810 日本語

文庫新書

:S

953 ~ 990

950 フランス文学
980 韓文学

文庫新書

:S

47 48



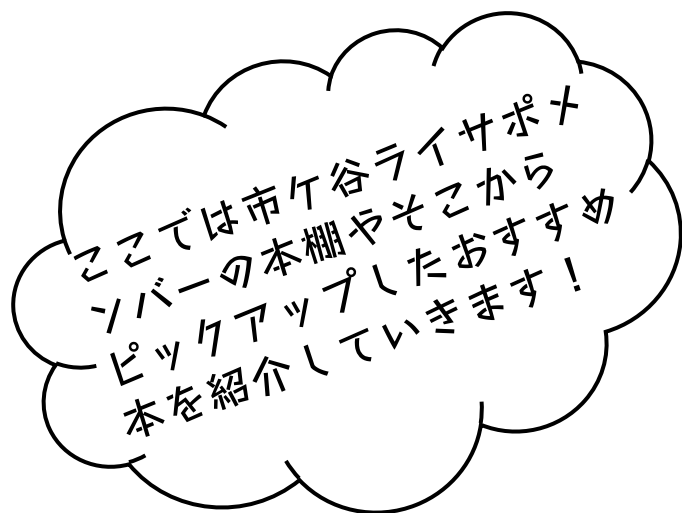
- ・ 本棚紹介
- ・ 一口小説
- ・ 文豪ゆかりの地巡り

- ・ 電子ブック活用術
- ・ 年間活動記録

Index

MY BOOK SHELF

— 本棚紹介 —



なんとなく手に取り、何回も読んでしまった本をご紹介します。疲れている人や、ガッツリした本を読まない人にもおすすめしたい3冊です。

○『4時のオヤツ』（杉浦日向子 2006 新潮文庫）

夜更かしの楽しさを知ったところに、一晩で読破してしまった短編集です。一話読み終えるたびに、「喫茶店やら電車の中やらで、近くに座った人の会話を聞いちゃった」みたいな、「なんかいいところに居合わせちゃったなあ」みたいな、そんな満足感に浸れます。

○『今日も一日きみを見てた』（角田光代 2017 角川文庫）

「なんてかわいいのだ。ああ、なんて、なんて、なんて。」本の帯に書かれたことばに惹かれ、衝動買いした一冊です。「猫と一緒に日常を生活している」感じがして、気づいたら緩く口角が上がっていたりいなかったりします。

○『世界の地下鉄駅』（水野久美・文 2017 青幻舎）

文章がちょっと入っている写真集です。「地下鉄に乗る」という同じ目的で作られていてもデザインによって全く違うものを作れるということが、当たり前なことでも面白く感じます。「地下鉄駅=均質なもの」固定観念を、鮮やかに書き換えてくれる一冊です。

(ライサポ1年)



主に小説が好きだが、他ジャンルも多く読むため、それも含めて紹介していく。

○『**絶滅動物図鑑**』（ジョン・ウィットフィールド 2021 日経ナショナル ジオグラフィック社）
動物の歴史が始まったエディアカランと呼ばれる時代まで遡った絶滅動物の図鑑であり、図や写真を用いており迫力がある。動物好きには一度は読んでほしい。

○『**走って、悩んで、見つけたこと。**』（大迫傑 2019 文藝春秋）

去年引退を表明した大迫傑の初の書籍である。マラソンで日本のトップにも立ったことのある彼の強さの正体を知ることができる。

○『**その時までサヨナラ**』（山田悠介 2012 文芸社）

妻を失い、子供と共に過ごすこととなった悟の元に謎の女性が現れ、翻弄される物語。謎の女性の正体は？衝撃のラスト、感動を超えた感情が湧き上がる。ぜひ、家族と一緒に読んでほしい。

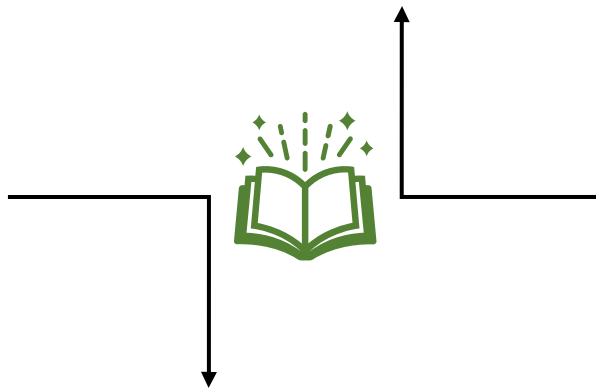
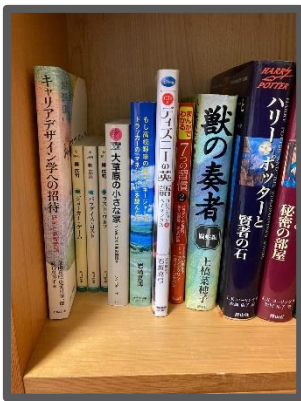
○『**余命10年**』（小坂流加 2017 文芸社）

不治の病にたおれ、余命10年と申告された茉莉。自分がこの立場であったら、残り10年どう過ごすだろうか…。とても考えさせられる一冊です。

○『**ハリーポッター裏話**』（J.K.ローリング+L.フレーザー 2001 静山社）

ハリーポッター好きにはたまらない一冊。あの名作の裏に隠された真実を著者自身が語っている。この本を読んでから、もう一度シリーズを読み返すと、新たな見え方ができるだろう。

（ライサポ1年）



この中から何冊か紹介します

○『**キャリアデザイン学への招待**』（金山喜昭、児美川孝一郎、武石恵美子編 2014 ナカニシヤ出版）

最初のガイダンスで貰える学部の本。キャリアデザイン学部の学びについて色々書いてある。読めばためになりそうであるが、いかんせん分厚いのがネック。

○『**ジョーカー・ゲーム**』（柳広司 2011 角川文庫）

戦前の陸軍内に秘密裏に設置されたスパイ機関"D機関"の活躍を描いたスパイミステリーシリーズ。一冊の中に6、7個ほどの短編で構成されているので読みやすい。

○『**もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら**』（岩崎夏海 2009 ダイヤモンド社）

もしドラ。スポーツもので定番の弱小チームが強くなっていく展開は面白く大好きだが、この本はその方法に、ドラッカーの理論を使っているのが斬新であり見事に野球部と組み合わせさせていくのが気持ちいい。終盤のあるシーンではハンカチが必要になるかも。

○『**獣の奏者**』（上橋菜穂子 2006 講談社）

闘蛇と王獣という2つの架空の獣がいる世界のアジアファンタジー。主人公の少女が波瀾万丈な人生を歩むうちに、王獣と心を通わせることに成功するがそれが国を巻き込む大きな事態となっていく。全4巻。プラス外伝一冊。

○『**ハリーポッターと賢者の石**』（J.K.ローリング 1999 静山社）

言わずと知れた名作。映画も完結済。映画ももちろん素晴らしい出来栄だったが、個人的には本でもぜひ読んでほしい。ストーリーを知っていても全然楽しめる。 Hogwartsや登場人物の描写がより多いので解像度が上がって面白い。ハリーたちの掛け合いでクスッと笑える部分も多々あるのでオススメ。作中のHogwartsの教科書の作者、ニュート・スカマンダーが主人公の映画「ファンタスティック・ビースト」シリーズはまだまだ続いているのでそちらもぜひ。

（ライサポ1年）

○「生命式」（村田沙耶香 2019 河出書房新社）

村田沙耶香自身がセレクトした、新たな価値観が流れ込んでくるような短編集。私が特に好きな短編作品は「孵化」です。「誰でもコミュニティの中で好かれるため、適応するために相手が望んでいるであろう自分を演じて生きている。」いつが本当の自分なのでしょう。誰もが抱える人格の矛盾を見つめ直させる短編です。

○「改良」（遠野遥 2019 河出書房新社）

「美しくなるために努力する大学生の私は、コールセンターのバイトで稼いだ金を美容とデリヘルに費やしていた。やがて私は他人に自分の女装した姿を見てほしいと思うようになる。」美しさを絶対的価値に置く主人公の視点から見る世界は斬新で異様だけれど、どこか共感できてしまいます。

「どうして、私は美しくないのだろう。」

○「沈黙」（遠藤周作 1981 新潮文庫）

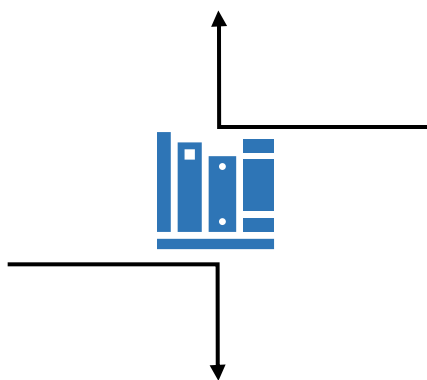
「キリシタン禁制の厳しい日本に潜入したポルトガル司祭ロドリゴは、日本人信徒たちに加えられる残忍な拷問と悲惨な殉教の呻き声に接して苦悩し、ついに背教の淵に立たされる。」神の存在や沈黙、背教などキリスト教における根源的な問題を衝く作品です。

「主よ、あなたは今こそ沈黙を破るべきだ」

○「教室に並んだ背表紙」（相沢沙呼 2020 集英社）

図書館を舞台に「読書」との出会いで変わっていく少女たちの心模様を描く短編集。私が特に好きな短編は「その背に指を伸ばして」です。「図書委員のあおいはある日、苦手な同級生を図書室で見かける。本に興味のないはずの彼女が毎日来るのは何故だろうと疑問を抱く。」少女たちの物語を通じて、読者にも勇気や希望を与えてくれる美しい作品です。

（ライサポ2年）



○『レイトン教授と幻影の森』（柳原慧 2010 小学館）

レベルファイブのゲーム「レイトン教授」シリーズ、書き下ろしオリジナルノベライズ作品です。小説はもちろん、小説に登場する謎を読者自身で解き、楽しむことができます。私はゲームも小説も大好きです。

○『勉強大全』（伊沢拓司 2019 KADOKAWA）

勉強の作法をレクチャー、受験に合格するためのエッセンスがまとめた本です。受験期によく読み返していました。受験とは関係なしに、元気が出るメッセージもあります。オススメです。

○『文鳥・夢十夜』（夏目漱石 1976 新潮社）

有名どころ①。夏目漱石の作品の中でも『夢十夜』は特に有名な印象がありますが、私は『文鳥』も大好きです。他にもいくつか短編が収録されています。こういった短編集は通学時間にサクッと読めてオススメです。

○『沈黙』（遠藤周作 1981 新潮社）

有名どころ②。文学の授業を通して読みました。島原の乱が鎮圧されて間もない頃、日本に潜入したポルトガル人司祭のお話です。この作品は宗教関係なしに現代の私たちにも刺さると思います。

（ライサポ2年）

題材はさまざまなものがあるが、ジャンルがノンフィクションに偏っているため、今後はフィクションの作品にも進出したいと考えているところである。

○『**和菓子のアン**』（坂本司 2012 光文社文庫）

進路を決められないまま高校を卒業した杏子は、デパ地下の和菓子店「みつ屋」で働き始める。一見上品なのに中身はおじさんの女性店長、乙女心を持つイケメン店員、可愛らしいが実は元ヤンキーの店員に囲まれる中、和菓子の奥深い魅力に引き込まれていく。お客さんの謎めいた発言に隠された真実にも驚かされるミステリー作品。この小説を買ったのは小学生の時だが、自分が洋菓子店でアルバイトを始めた今共感できることが多く、再び熱中している。

○『**ラオスにいったい何が ある というんですか？ 紀行文集**』（村上春樹 2018 文藝春秋）

タイトルが気に入り衝動買いしてしまった紀行文集。かつて村上さんの本拠地であったボストンから始まり、アイスランド、ギリシャ、ラオス、熊本での居住と旅の思い出が綴られている。数々の名作のヒントとなったエピソード、旅の途中での出会いが興味深い。読めば必ず世界中を旅してみたいくなる作品。

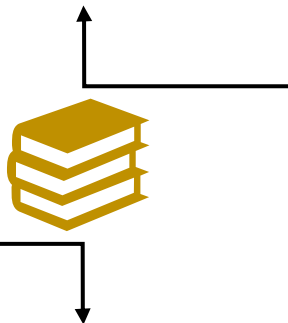
○『**しまぬ太陽**』（山崎豊子 2001 新潮文庫）

会社の不条理を訴えたが故に、報復人事として僻地をたらい回しにされる主人公・恩地元。カラチ、テヘラン、ナイロビへの異動、御巢鷹山での飛行機の墜落事故の対応など、とても人が一生に体験するとは思えない壮絶な体験に開いた口が塞がらなくなってしまった。実在の人物をモデルに書き下ろされたものであり、数年前にドラマ化された。

○『**沈黙**』（遠藤周作 1981 新潮文庫）

こちらも史実に基づいたものであり、数年前に映画化された作品。当時イエズス会の中でリーダーシップを発揮していたフェレイラ師が、激しいキリシタン弾圧に打ちのめされて棄教した挙句に帰化したことを耳にして、宣教師たちが真実を確かめに渡日する。当時の拷問の残虐さに呆然としてしまうととも、現存する宗教問題についても考えさせられる小説である。

（ライサポ2年）



○『**Day to Day 講談社=編**』（講談社 2021）

緊急事態宣言下の中でネットにて連載されていたものがハードカバーになったもので、コロナ禍を題材に有名な現代作家たちが書いています。ここから気になる作家を探してみるもよし、作家によって作風が違うことを楽しむのもよし、の2点がおすすめポイントです！

○『**ホーンテッド・キャンパス**』シリーズ（榎木理宇 2012 角川書店）

私が高校生の時に好きになり読んでいた本。いろんなことが終わり時間ができたのでまた読み始めました！舞台は大学にあるオカルトサークルでオカルト×ミステリ×恋愛の3方面からドキドキしながら読むことができるところが魅力です。

○『**浜村渚の計算ノート**』シリーズ（青柳碧人 2009 講談社）

これも私が高校生の時に好きになり読んでいて、最近読むのを再開させた本。数学ミステリです。私が算数や数学を嫌いになれないのはこの本のおかげで、理系が苦手な人でも楽しめるところが魅力です。

○『**かくして彼女は宴で語る 明治耽美派推理帖**』（宮内悠介 2022 幻冬舎）

文豪がでてくるミステリとテレビで見て購入した本。文豪好きにもミステリ好きにも刺さるかも?! などが魅力です。

○『**わが町・青春の逆説**』（織田作之助 2013 岩波文庫）

卒業論文で扱っていたテキスト。短編小説を多く書いたオダサクによる長編小説であり、今年一年の相棒（愛読書）でした。大阪愛と青春を感じたい人におすすめ。

（ライサポ4年）

写真にある本棚の中からピックアップした本を紹介していく。今回紹介しない本もどれも私のお気に入りのため、気になった方はぜひ手に取ってほしい。

○『ぬらりひょんの孫』（椎橋寛 2008 集英社）

一見普通の男子中学生である奴良リクオは、実はぬらりひょんという妖怪と人間とのクォーターである。そのため夜の間だけ妖怪になってしまう。普通の人間と同じ暮らしをしたいリクオと数多くの妖怪を束ねる奴良組の若頭としての立場に挟まれながら成長していく物語。数え切れないくらい多くの妖怪が登場するため、妖怪の知識が増え、それぞれのキャラクターがとても魅力的。

○『怪盗クイーンはサーカスがお好き』（はやみねかおる 2002 講談社）

はやみねかおるによる、怪盗クイーンシリーズの第1巻。怪盗の美学なるものを持ち、トルバドールという名の飛行船で世界を飛び回るクイーン。狙った獲物は必ず盗む彼(性別不明)に勝負を挑んできたのはサーカス団！怪盗クイーンシリーズは児童文学にしては分厚いの一冊では済まない分厚さの小説でありながら、テンポの良い会話と読みやすい文体で長さを感じさせない作品だ。今回本棚に並べたのはこのシリーズの中でも私が好きな本たちである。今年の夏にこの『怪盗クイーンはサーカスがお好き』が映画化されるので気になった方は原作と一緒にどうぞ！

○『クールDJ男子』（那多ここね 2019 スクウェア・エニックス）

この作品に登場するのはなんでもサラッとこなすような年齢がバラバラのスマートな4人の男性たち。しかしその男性たちにはある問題があった。それは全員が全員「DJ」であること。ある時はコンビニの店員に商品ではなく財布を差し出したり。またある時は引くドアを押して開かないことに首を傾げたり。そんな自分もやったことある！というDJをするキャラクターたちに微笑ましさを感じる作品。

○『お茶が運ばれてくるまでに』（時雨沢恵一 2010 アスキー・メディアワークス）

お茶が運ばれてくるまでの少しの時間。その時間にそっと開いて読める短編集。心を見透かされたような話、ぎゅっと心を掴まれる話、ストーンと胸に落ちてくる話など心動かされる話がこの本にはたくさん収録されている。ふとした時にべらりとめくってみたいくなる作品。

(ライサポ4年)



本棚の中から、特に何度も読み返している本を選びました。なぜか年代が近くなってしまったのが不思議です。

○『フライ・ダディ・フライ』（金城一紀 2009 角川書店）

ごく普通の父親だってヒーローになれる！ 大事な子供を守るために強くなっていく主人公に心打たれます。同じシリーズの『レヴォリューションNo.3』や『SPEED』もおすすめです。

○『ナラタージュ』（島本理生 2008 角川書店）

心の機微が伝わる恋愛小説です。こんな風に人を想いたいとも、こんな恋は辛いからしたくないとも感じます。年上好きの女性に手に取ってもらいたいです。私は見事に落ちました。

○『風が強く吹いている』（三浦しをん 2009 新潮社）

箱根駅伝を目指す若者たちの物語です。ただ走るだけなのに目が離せない駅伝の魅力に迫れます。実は法政大学の陸上競技部にも取材して書かれているんです。

○『DIVE!! 上/下』（森絵都 2006 KADOKAWA）

10メートルの飛び込み台からプールに飛び込むたった1.4秒に青春を賭ける少年たちの物語です。天才肌、努力家、一匹狼、謎のコーチなど面白い要素が盛りだくさんで最初から最後までページをめくる手が止まりません。

(ライサポ4年)

本棚には、その人の生活が宿る。例えば、並べられている本のジャンル。よく読む作家。タイトルにある言葉。それから、本の並べ方にも。その人がどういう基準で本を選ぶのか、どうして本を買うのか。どこでその本と出会ったのか、どんな時に読むのか。空想を広げながら、読んでいただければ幸いです。

○『夜とコンクリート』（町田洋2014 祥伝社）

ベランダから吹く夜風の音。屋上から見た空の静けさ。夏休みのせせらぎ。過ぎた時間の北風。『夜とコンクリート』は、誰もが感じたことのある心に寄り添ってくれる漫画です。またそれだけでなく、登場人物のセリフの合間には、確かに風の音や、肌に空気の温度を感じる瞬間があります。穏やかな言葉と、その世界の空気を含んだイラストを持つ、素敵な作品です。夜更けに読みたくなる物語。

○『ガラスの街』（ポール・オースター著 柴田元幸訳 2013 新潮社）

読後の果てしない虚無感。私が本を読んでいた時間は、一体何だったのか？この後主人公はどうなってしまふのだろうか？何も分からず、どうすればいいかも分からず、この世界観から抜け出すのに時間を要する作品です。それ故に強烈に記憶に残り、半年に一度の割合で読み返したくなる、不思議な魅力があります。また、登場人物に著者の名前があるなど、お茶目な一面もあるお話です。通学中に読みたくなる物語。

○『フィンガーボウルの話のつづき』（吉田篤弘 2019 平凡社）

例えば、お気に入りの音楽を聴いた時。自分のほかにこの曲を聴いている人は、どんな人なんだろう？どうしているかを考える人が、どんな気持ちで聴いているだろう？そんなことを考えたことはないでしょうか。本著は、ビートルズの「ホワイト・アルバム」と関わりを持つ登場人物たちの、不思議にリンクした、それぞれの物語が描かれています。文章の端々には、著者が日常から拾い上げたような、様々な思いが光ります。とても身近で、穏やかな時間が流れてゆきます。うららかな午後に読みたくなる物語。

○『人間失格』（太宰治 1989 角川書店）

小気味のよいリズムカルな文章と、油断すれば共感ばかりしてしまう孤独、悲しみ、恐怖。この主人公に対して、読者である自分がどのように距離をとればいいのか、非常に迷う作品です。年をとるごとに、抱く感想が異なってくる作品だと、私は思います。時に主人公の味方として、また時には、主人公が恐れる「不可解な世間」側の人間として。読むたびに変わっていく、自分自身の心情と対話している気持ちにもなります。長い夜に読みたくなる物語。

『夜とコンクリート』以外の3冊は、法政大学図書館にも所蔵されている作品です。読んでみたいと思った方は、ぜひ図書館へ赴いてみてください。新しい本との出会いが、本棚の中にしまわれています。

（ライサポ4年）

Library
Supporters



一口小説

ライサポメンバーが隙間時間にも読める短編小説の執筆に挑戦しました。

「フル単」

午後七時の図書館が好きだ。外は真っ暗で、人も極めて少ない。一階では、開架雑誌コーナーにあるメンズノンを読んでいるダサイ服の男子学生が一人いるだけだ。まあ、僕はそんなオシャレな本を読んでいる暇はない、し、僕は今着てるこのシマウマ柄のブルゾンで充分イケてると思ってる。僕がここに来たのは、哲学のレポートを完成させるためだ。締め切りは明日なのにまだ手をつけていないという愚劣さに、呆れを通り越して、笑いたくなった。まあ、昨日サークルの仲間と神楽坂で夜十一時まで飲んでいたことが絶対的に悪いんだけど。サークルの仲間は僕が夜の図書館でコツコツと打鍵をしているとはつゆも思わないだろう。だから、僕が入学以来ずっと「フル単」であることを誇るのだ。

彼らには想像力がない。僕みたいな奴、と「フル単」であるという事柄を、思考を媒介させてうまく融合することができないのだ。と言ってしまうと、僕はサークルの連中をすぐく下に見ているようだが、そうでもない。話すと、楽しい。ただ、あいつらと僕が純粹な関係にいられるように、この「夜の図書館」が毎回僕の犠牲を吸い込んでくれる。

L I B R A R Y

S U P P O R T E R S

「変人」

目の前にはマック、その左にスターバックス、上を見上げれば人間が立てたとは思えない高さのビルが立ち並んでいる。いや、これは至極当たり前のことなのだろうが、現代を生きる私達は、かなりヘンテコなことすらも当たり前だと捉えているのではないだろうか、と俺は思う。人にはよく哲学科だと間違われるが、残念ながら日本文学科である。これから、大学に行く。授業はない。図書館に行く。このことを朝、寮の友人に話したら、変人だと言われた。今、コーヒの隣にある新書の題名を見たら、さらに変人だと言うだろう。返却する本の表紙を手提げ袋に入れていたのは正解だった。

図書館で本を探すときの方法として、本棚と本棚の間をぶらぶら歩いて、気になった題名の本を手に取り、パラパラ見るのを、「ブラウジング」というらしい。俺はこのブラウジングが大好きだ。俺は優しいから、ブラウジングのことを知らないような人に、ブラウジングという用語をわざわざ使ったりはしない。だから、「いつも図書館で何しているの？」という言葉も、半ば呆れのような、軽蔑のような表情とセットで受け取ったときは決まって、「ただぶらぶら本棚の間を歩いている」と言う。すると相手は、「なんて時間の無駄なんだ」と言いたそうな表情をする。なぜかそれが僕は嬉しい。

一口小説

「ガヤズ」

「ガヤズ」と聞いて、それが何を指しているかを想像できる法大生はきっと全体の二割もいるまい。なぜならこれは私が勝手に作った用語だからだ。想像できたあなたはすごい。正解は、市ヶ谷図書館のことである。外濠門を出るときに、友達が飯田橋のことを「ダバシ」、市ヶ谷のことを「ガヤ」と言っているのを聞いて、東京出身でない私はひるんだ。瞬時にある男性アイドルを連想したのだが、私が割とガチのドルオタであることは絶対に明かしてはいけないので口をつぐんだ。それから妙に「ガヤ」という言葉の響きが耳に残って、心の中で密かに市ヶ谷を「ガヤ」と変換した。そして図書館の図は「ず」とも読むから合わせてガヤズ。ガヤズに入って、階段を上って、学生証を通して、目線を少し右に移したところにあるお宝を知っている人はどのくらいいるのだろうか。少なくとも、私は知っている、それを「お宝だとも思っている。キャラじゃないけど、私は結構本気で英語を勉強している。最近、好きなアイドルが英語ペラペラだったから……」。おそらくネイティブの幼稚園児や小学生が読むであろう薄い本を、必死になって読み切ろうとしている私。あれ、これって巷で言う、がんばってるってこと？

ガヤズの地下一階は私にとってはちょっと行きづらい。親切的な基礎ゼミの先生がゼミ生全員を連れて、一度案内してくれただけ、なんか一階よりもアカデミックって感じがする。でも、そこでとっておきの一冊を見つけてしまった。勇気を持って入った三週間前に見つけた。目を引く表紙じゃない、文字も小さい。てか古い。でも内容がすごく好き。だけど誰にも言っていない。お宝のことも、地下一階のことも、もちろん「ガヤズ」という愛称も。別にこの資源を独り占めしたいわけじゃない、これに至った労力を惜しんでいるわけでもない。ただ、私は自分が思うより秘密主義者かもしれない。このことも秘密にしておこう。

～文豪ゆかりの地を巡る～

芥川龍之介と両国



安田庭園から両国国技館の屋根を望む

飯田橋駅からJR総武線各駅停車で5駅。隅田川を渡ると、左手に国技館と江戸東京博物館が見えてくる。大相撲の聖地、両国に到着だ。駅から徒歩4分に位置する両国小学校の前には、「芥川龍之介文学碑」が建っている。「羅生門」「蜘蛛の糸」といった作品で有名な文豪・芥川龍之介は、この小学校の卒業生。生後7か月から18歳までをこの地で過ごした。今回は芥川が両国の街を描いた随筆「本所両国」をなぞりながら、文豪ゆかりのスポットを紹介する。



両国小学校の前に建つ「芥川龍之介文学碑」



東京都慰霊堂。現在の23区の中心部で最も被害の大きかった被服廠跡地に建てられ、震災7年後の1930年に完成した。東京大空襲の犠牲者も慰霊している。

「本所両国」は東京日日新聞（現毎日新聞）の連載「大東京繁昌記」に掲載された。この連載は昭和2年（1927）3月15日から10月30日までの半年以上に渡り、関東大震災から4年が経過する中で復興へと邁進する東京の街々を描く企画だった。島崎藤村が「飯倉附近」、高浜虚子が「丸の内」を担当するなど、東京の各地の様子が描かれている。

芥川本人も被災しており、多くの知人や親類を亡くした。作中にも親戚が安田庭園の池に落ちて息を吹き返した話や、陸軍被服廠で大勢が火災によって亡くなったことの記述がされている。

そんな現在の両国駅や陸軍被服廠のあった場所は「お竹倉」と呼ばれる幕府の資材置場だった。「本所の七不思議」と呼ばれる怪談話の一つ「置いてけ堀」の舞台とされる場所だ。怪談話の舞台となった江戸時代においては、周囲に堀が巡らされて釣りができたという。現在は日大一高前に観光案内板が設置されているだけで、面影はない。



表忠碑と大高源五の句碑



忠臣蔵の舞台となった吉良邸跡。当時の屋敷はより広大だったが、今もその一角が歴史を今日に伝えている。



鼠小僧の墓。長年捕まらなかった運にあやかろうと、墓石を削りお守りに持つ風習が残っている。



昭和11年（1936）に相撲協会が歴代相撲年寄の慰霊の為に建立したものの。その後新弟子たちが力を授かるように祈願する碑として大切にされている。現在も相撲と回向院とのつながりを示す象徴になっている。

芥川が見た景色で現存するものの一つは、両国橋の袂に建つ「表忠碑」だ。日露戦争の戦没者を慰霊する巨大な碑で、「両国橋の袂にある表忠碑も昔に変らなかつた」と作中に記されている。表忠碑の前には、忠臣蔵四十七士の一員である大高源五の句碑が建つ。時代劇や講談で有名な忠臣蔵は、江戸時代中期の元禄15年12月14日、主君の仇討ちのために吉良上野介を討ち取った赤穂浪士の物語だ。討ち入りの現場となった吉良邸跡は現在公園になり、観光スポットとなっている。

芥川が作中で最後に訪ねたのが回向院だ。明暦3年(1657年)に開かれた浄土宗の寺院で、明暦の大火で亡くなった身元や身寄りの分からない人々を葬るために将軍家綱が法要を行ったのが始まりとされている。関東大震災の火災で被害を受けた寺院だが、江戸時代後期の盗賊である鼠小僧の墓はその被害を免れた。芥川にとってこの墓は昔馴染みで、近くの墓地を荒らして怒られた思い出とともに回想している。回向院は大相撲との歴史が長い寺院でもある。江戸時代には境内で相撲興行が行われており、初代国技館も境内に建てられた。現在も境内には、相撲協会が歴代相撲年寄（親方）の慰霊の為に建立した「力塚」

が建立されている。

大相撲の印象が強い両国だが、その歴史を紐解けば、怪談話や忠臣蔵の舞台、災害との関わりも深い街だと言える。芥川の作風に両国の街がどのような影響を与えたのか。実際に歩きながら思いを巡らすのも「文豪ゆかりの地」を訪ねる楽しみだ。（みやじ）

（参考文献）

- ・『大東京繫昌記 下町編』講談社文芸文庫.2013
- ・P+D MAGAZINE「芥川龍之介没後90年。その生涯に迫る。」2022年3月28日
<https://pdmagazine.jp/people/akutagawa/>
- ・一般社団法人新宿観光振興協会『協働企画展示「芥川龍之介と太宰治」』2022年3月28日
https://www.kanko-shinjuku.jp/event/-/article_3149.html
- ・回向院ホームページ 2022年3月28日
<https://ekoin.or.jp/>
- ・都立横網町公園-震災、戦災の記憶-「東京都慰霊堂 / 慰霊堂の歴史」2022年3月28日
<https://tokyoireikyukai.or.jp/ireidou/history.html>
- ・墨田区観光案内版

電子ブックを 使ってみよう!

図書館で利用できるのは、紙の本だけではありません! オンラインデータベースや電子ブックといった電子資料も使えます。この記事では、電子ブックの利用方法や種類について紹介します。

電子ブックを 利用するには

- ①VPN(AnyConnect)接続をして図書館のホームページにアクセスする
- ②図書館OPACにログインする
- ③「データベース」から「電子ブックを読む」を選択する
- ④使いたい電子ブックにアクセスする

取り組み

ここでは、今年度電子ブック関連で行われた取り組みを紹介します。

①電子ブック購入リクエストの受付

→教育・研究に関連し、他の利用者からの利用が見込まれる資料にリクエストを受け付けていました(今年度は4月1日から1月31日まで)。

②読書週間企画

【[#法大生電子ブック使ってみた2021](#) Twitterキャンペーン】

→電子ブックを利用して感想をTwitterに投稿すると景品がもらえるキャンペーンです。

③ホームページ、公式Twitterの活用

→図書館ホームページには、電子資料のメンテナンス情報や新着情報が載っています。また、Twitterでアクセス数ランキングやおすすめ本の投稿も見られます。

どんなサイトがあるの？

☆KinoDen：キノデン

紀伊国屋書店が運営する学術電子図書館です。SPI対策や面接対策といった就活本や、簿記やTOEICの勉強ができる本など、学術書や研究書が中心です。また、アプリをダウンロードすることで付箋やマーカーという便利な機能が使えるようになります。TOEICやSPIの対策本が人気です。

☆Maruzen eBook Library

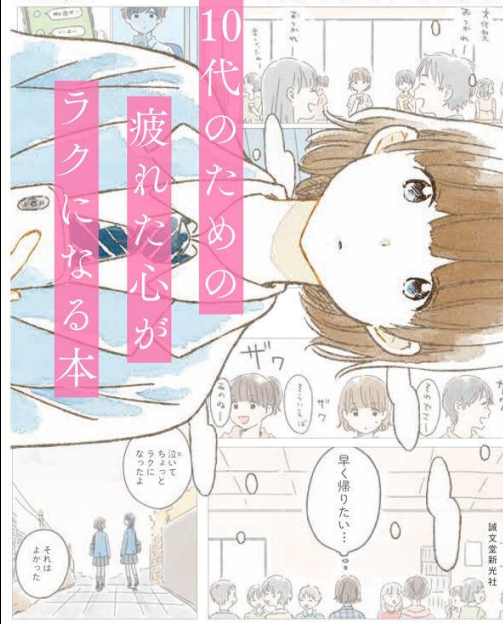
丸善雄松堂が運営する電子書籍サイトです。トップページに「人文科学」や「理工学」といったジャンル分けがされており、読む本を分野から絞り込むことができます。『地球の歩き方』シリーズや判例集がよく読まれています。

→最近特に読まれている本はこれ！

『10代のための疲れた心がラクになる本—「敏感すぎる」「傷つきやすい」自分を好きになる方法』（長沼睦雄著、誠文堂新光社、2019年）

精神科医の著者が、パンクしがちな心とどう向き合うかを3つのポイントに分けて書いています。心の状況を少しでも変えたい人はぜひ読んでみてください。

長沼睦雄 「敏感すぎる」「傷つきやすい」
精神科医 十勝ひつものクリニック院長
Mutsuo Naganuma 自分を好きになる方法



**NO
LIBRARY
NO
LIFE**

2021年度 市ヶ谷図書館ライサポ年間活動記録

4月

●市ヶ谷図書館便り特別増刊号発行●

特別号として、図書館便りをライサポが一から編集しました。
読書編歴・本棚紹介や三題断など、魅力的な内容が盛りだくさん！

●新聞を読む会&新聞の読み方講座●

就活を終えたライサポの4年生が、実体験をもとに新聞の読み方を直伝！多くの人が参加する大人気企画になりました。

●先輩の推し本紹介●

3人のメンバーの推し本紹介を行いました。3分で本紹介を行い、投票でチャンプ本を選ぶビブリオトークが白熱しました。



6月

●ビビッときた本紹介for Twitter●

新メンバーを加えて初めての企画！本の書評・POPを書き、Twitterに掲載しました。各人の個性が色濃くあらわれたPOPがたくさん作られました。



10月(1)

●1文で当てろ！イントロクイズ●

有名な小説の冒頭など、分かりやすい一文を使って題名を当てるクイズ大会を行いました。なんと、全問正解者が続出しました！



10月(2)

●学祭ビブリオバトル●

ビブリオバトルを学祭で行いました。3分という時間の中でいかに本の魅力を伝えるか、メンバーの個性があふれる戦いになりました。

●ピアサポ交流会2021●

成城大学をはじめとする、都内の大学のピアラーニング活動に取り組む学生がオンライン上で集い、コロナ禍で新入生サポートのあり方、大学全体がオンライン主流である状況下で、学びに対する建設的な姿勢をどのように作るかに関して話し合いました！



11月

●選書ツアー@紀伊国屋●

新宿紀伊国屋書店で図書館に新しく入れる本を選べるという夢のような企画！
バーコードリーダー片手に広い店内を歩き回りました。



12月

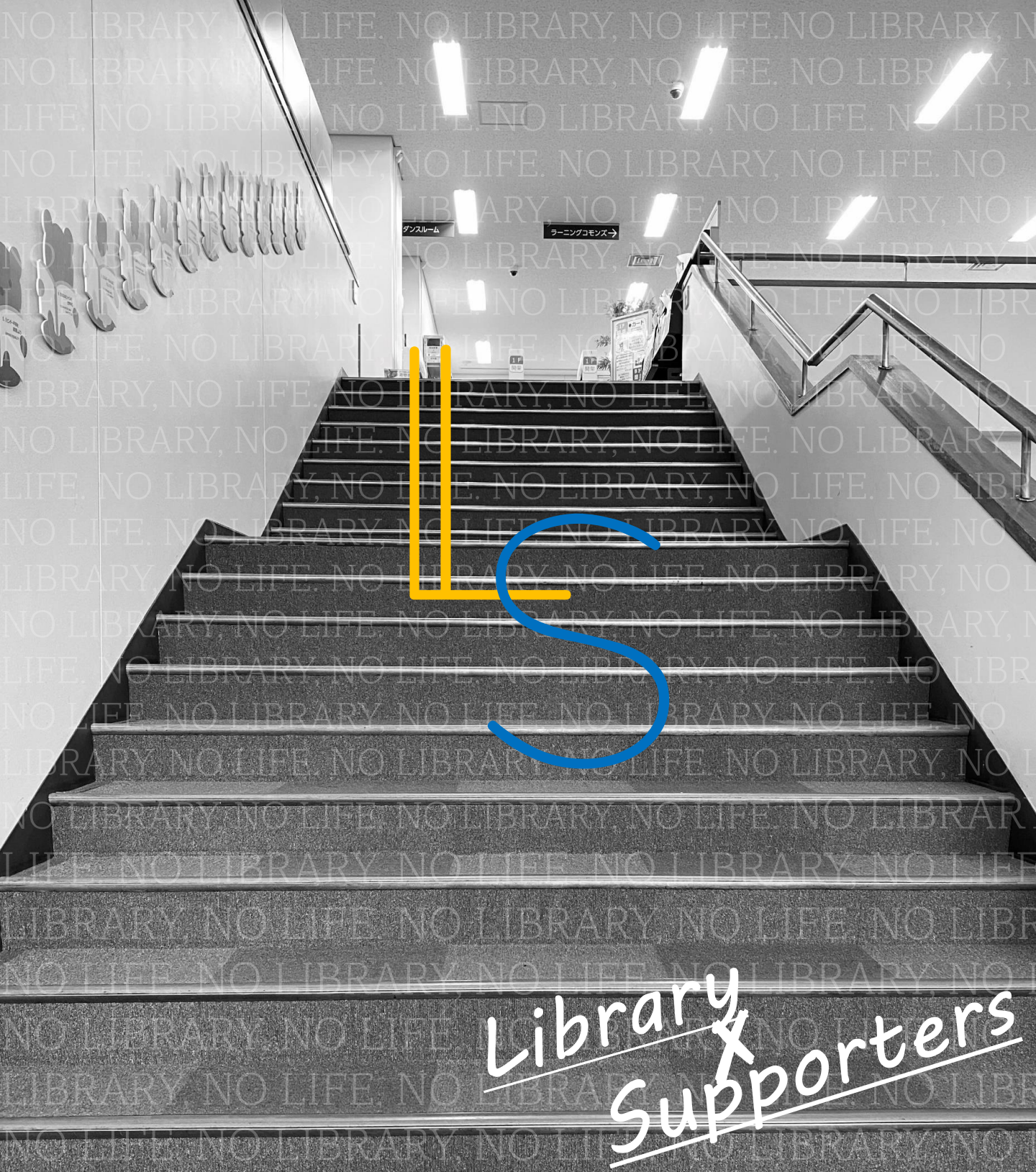
●本みくじ&本紹介(Twitter)●

「食べ物や喫茶店が登場する本」をテーマに、本のおみくじとそのPOPをTwitterに掲載しました。本ごと食べたくなるようなものを集めました！

●レポート作成スキルアップ研修●

大学生なら避けては通れないレポート作成における基礎的な知識をオンライン上で学びました。他大学の学生とグループワークをし、さまざまな考えに触れることで、普段のゼミナールなどで活かせる集団内での調整力や表現力が身につきました。





法政大学市ヶ谷図書館ライブラリーサポーターは学生の視点から図書館の運営を手助けする学生ボランティアです。私達は多くの学生がよりよく図書館を利用できるよう活動しています。

現在、新たなメンバーを募集しています。詳しくは下記QRコードから。

(ライサポー同)

募集対象：市ヶ谷キャンパスの学部生、院生、通信教育学部生

お問い合わせ：市ヶ谷図書館B1Fレファレンスカウンター TEL03-3264-9515
www.hosei.ac.jp/library/shokai/gaiyo/library_supporter

